

美しい時代へ——東急グループ

私たちは、変わります。

MAKE A CHANGE.

それは「生活総合プロデュース集団」として大いなる変革を誓う私たちが、新たに掲げる合い言葉。

刻々と変化する時代のニーズと、なによりお客様からの期待にお応えするために。

2013年10月、東急不動産ホールディングス、スタート。

東急不動産、東急コミュニティー、東急リパブル、東急ハンズ、東急住宅リースの持株会社として、

グループの総合力で新たな価値の創造を目指します。

変わらぬ思いで、変えていく。

東急不動産ホールディングス

首都圏で再開発が加速

東京を中心とする首都圏で再開発が加速している。都市の国際競争力の向上は国の発展にとって大きなテーマだ。ビルを壊して作るだけでは都市の魅力を引き出せない。オフィスや商業施設、住宅などの機能を複合的に組み合わせた構想が求められる。東京五輪の開催が決まったことでターゲットも明確になった。大手不動産各社も取り組みを強化している。

東京に新しい魅力を

森記念財団都市戦略研究所は2015年3月3日に、人々が抱く感性的な価値から世界主要21都市を評価するユニークな都市ランキングを発表した。第1位を占めたのは東京だ。「ホスピタリティ」や「効率」といった東京の持つ強みが決め手となった。

日本橋再生へ

三井不動産

三井不動産が参画する「日本橋二丁目地区第一種市街地再開発事業」は14年11月に建設に着手した。東京・日本橋では現在「残しながら、蘇らせながら、創っていく」をテーマに官民地元が一体となって「日本橋再生計画」を推進中だ。同事業は日本橋再生計画の第2ステージの中核を担うプロジェクトとして進んでいる。計画地には重要文化財の高島屋日本橋店を保存し、屋上には緑に囲まれたテラス空間を誕生させる。建設する大規模複合ビル2棟はオフィスと商業施設を主な用途とする。オフィスは大規模なフロアに加えて200人規模の共用会議室などを整備する。商業施設は高島屋のプロデュースで日本橋店との一体感を持たせる。



渋谷をさらに活性化(東急不動産、道玄坂1丁目駅前地区)

立川駅前プロ

野村不動産

野村不動産はJR中央線・立川駅前複合再開発プロジェクト「プラウドタワー立川」を推進中。住宅の販売は14年7月に第1期が即日完売、9月10月の第2期販売を経て12月には全戸が契約完了し、プロジェクトは佳境を迎えている。同プロジェクトは1995年の地権者有志による勉強会立ち上げから



「日本橋再生計画」を推進中(三井不動産)



「プラウドタワー立川」外観完成予想図(野村不動産)

ターゲット、これまで20年の歳月を経ている。完成予定は16年。住宅をはじめ公共施設や商業施設、さらに立川駅西側新自由通路と西口新改札に直結される公開広場を設置するなど、周辺の利便性向上も図っている。

立川駅を中心とする周囲500m圏内は「伊勢丹」や「高島屋」、「ルミネ」、「グランデュオ」など多彩な商業施設が集積し、首都圏でも有数の都市機能を誇る。また、国営昭和記念公園などの自然環境や多くの行政施設がある。野村不動産は立川駅前のほかにも複数の事業を推進中。今後も積極的な再開発事業への参画で、それぞれの都市の持つ多様な魅力を引き出していく構えだ。

渋谷で4事業

東急不動産

東急不動産は渋谷駅を中心とする青山や表参道を描く。

これらの再開発事業は渋谷の都市機能を根本から見直す取り組みとして官民一体で進められている。再開発が完了する27年には、国内外からさらに多くの人びとをひきつける街へと変貌する。

森トラストという戦略。

不確実性が高まっている現在。

未来を拓く鍵は、リスク耐性だけではない。

次世代の商機を掴む戦略。

共益の思想を持つ企業とのパートナーシップ。

この一手が、新しいビジネスを創造する。

その先の未来を託される企業として

都市を託される責任。



MORI TRUST GROUP

丸の内トラストシティ(丸の内トラストタワー本館・N館)